

平成28年 1 月

関西広域連合議会産業環境常任委員会会議録

平成28年1月関西広域連合議会産業環境常任委員会会議録 目次

平成28年1月9日

1	議 事 日 程	1
2	出 席 委 員	1
3	欠 席 委 員	1
4	事務局出席職員職氏名	1
5	説明のため出席した者の職氏名	1
6	会 議 概 要	2

○議 事 日 程

開会日時 平成28年 1 月 9 日

開催場所 本部事務局 大会議室

開会時間 午後 1 時00分

閉会時間 午後 1 時50分

議 題

調査事件

関西広域スポーツ振興ビジョン（仮称）（案）について

○出 席 委 員 (19名)

3 番 中 沢 啓 子	22 番 長 坂 隆 司
4 番 家 森 茂 樹	23 番 岸 本 健
5 番 諸 岡 美 津	26 番 興 治 英 夫
6 番 大 橋 一 夫	29 番 元 木 章 生
10 番 中 川 隆 弘	31 番 井 坂 博 文
13 番 横 倉 廉 幸	33 番 丹 野 壮 治
15 番 藤 田 孝 夫	34 番 八 尾 進
16 番 藤 原 昭 一	36 番 吉 川 敏 文
19 番 川 田 裕	38 番 藤 原 武 光
20 番 阪 口 保	

○欠 席 委 員 (1名)

17 番 永 田 秀 一

○事務局出席職員職氏名

議会事務局長	神 崎 敏 道
議会事務局次長	古 川 美 信
議会事務局総務課長	岡 明 彦
議会事務局調査課長	樋 本 伸 夫

○説明のため出席した者の職氏名

広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長	小 橋 浩 一
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部広域スポーツ振興課長	八 木 康 文
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（滋賀県）	林 毅
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（京都府）	徳 廣 剛
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（大阪府）	島 原 賢 司
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（奈良県）	吉 田 晴 行
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（和歌山県）	楠 義 隆
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（鳥取県）	小 西 慎太郎

広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（徳島県）	町 田 豊 治
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部参与（京都市）	松 田 晃 郎
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（大阪市）	折 原 真 子
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（堺市）	藤 川 郁 夫
広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部課長（神戸市）	中 村 俊 彦

午後 1 時00分開会

○委員長（家森茂樹） 改めまして、新年明けましておめでとうございます。これより関西広域連合議会産業環境常任委員会を開催いたします。

なお、本日の委員会より、奈良県議会、川田委員、阪口委員がご出席をいただいておりますので、ご了解願います。

本日の調査事件は、「関西広域スポーツ振興ビジョン（仮称）（案）について」であります。委員会の終了時刻は、13時50分を目途といたしますので、よろしく願いをいたします。

理事者側の出席者については、お手元に名簿を配付しておりますので、ご覧おき願います。

それでは、「関西広域スポーツ振興ビジョン（仮称）（案）」について、小橋スポーツ部長から説明をお願いいたします。

小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） それでは、私のほうから、「関西広域スポーツ振興ビジョン」につきまして、ご説明をさせていただきます。

失礼して座らせていただきます。

それでは、ご説明をさせていただきます。

前回の常任委員会におきまして、骨子としてお示しをさせていただきましたけれども、そのときに様々なご意見をいただきましたので、そのご意見を踏まえまして、ビジョンの概要及び本編という形で整理をしてございますので、よろしく願いいたします。

まず、A3横長の概要についてご覧いただけますでしょうか。

前回は、このA3の一枚もので骨子という形でご説明をさせていただきましたが、ご意見を踏まえまして、概要という形で下線、右側の「戦略1」、「戦略2」のところ、下線を引いたものについてご意見を反映したというところがございますが、多くの意見、本編のほうに詳細に反映をさせていただいておりますので、本編のほうでご説明をさせていただきたいと思っております。

それでは、ビジョン（仮称）ということで薄い冊子のほう、お願いできますでしょうか。

表紙をおめくりをいただきまして、目次から1ページのほうに「はじめに」ということで、今回のビジョンの作成に当たっての考え方、これまでの経緯ということをもとめてございます。

おめくりいただきまして、2ページをお願いいたします。

「スポーツをめぐる現状と課題」というところで、以降、概要、以前の骨子にまとめてございましたそういった内容について詳細に記載をしておるという形でございます。現状

と課題につきまして、それぞれ（１）まず、生涯スポーツの現状ということで、「①現状」、それから、「②課題」という形で区分して記載をしております。

生涯スポーツの現状としまして、少年期、青年期、11歳から19歳、若い世代でございますが、骨子にもございました、運動する子供としない子供の二極化が顕著となっていること、それから、体力の水準、これが低い水準になっているというようなことの現状を記載をしております。

それから、青年期・壮年期・中年期、中年期のところにつきましては、スポーツの実施率が減少しているという、こういった現状を記載をしております。

それから、中年期・高年期、60歳以上ということですが、逆にスポーツ実施率が増加している一方で、健康増進への意欲、こういったものがあるということを踏まえまして、3ページの冒頭、②の「課題」というところでございますが、それぞれの現状を踏まえて、ライフステージに応じた効果的なアプローチを検討することが必要ではないか、この塊の最後段ですが、関西広域連合として総合型地域スポーツクラブでございますが、こういうものの設置とか、活性化に向けた支援の検討が必要であろうという課題を掲げてございます。

「（２）競技スポーツの状況」としまして、「現状」の欄ですが、関西にございます様々な施設、こういったものを取り上げをさせていただいております、関西には、全国大会規模の施設が多数点在をしているということ、それから、「また」以下でございますが、関西圏域では、これまでも競技大会の誘致、大規模スポーツイベントの開催、こういったことに取り組んできたという経緯を記載をしております。

②の「課題」としまして、こういった大規模施設があるということでございますが、4ページをご覧をいただきまして、大規模大会、これを一自治体が単独で誘致しようとする場合に、様々な困難な点があるということで、施設利用についての自治体間の連携、こういった検討が必要ではないかという課題を掲げてございます。

「（３）の障害者スポーツの状況」としまして、①の「現状」の中で、障害者スポーツ大会、それから、障害者がスポーツを実施する障壁、こういったことをこれまで分析をされている結果を踏まえて、こういったアンケートの結果、こういう状況になるということを記載をしております。

申し訳ございません、冒頭にちょっと言い忘れてましたですけれども、この本編の中で下線を引いているところ、下線につきましては、この部分を骨子のほうに記載をしているということで、骨子に記載をされているところについて下線を引いております。申し訳ございません。

②の「課題」としまして、障害者スポーツの課題でございますが、障害者に対する理解、それから、参加機会の拡充方策、バリアフリー化、こういったものの検討が必要ではないかということでございます。

5ページにいきまして、「（４）スポーツ人材の育成と活用」でございますが、「①現状」としまして、国際競技大会の招致、開催につきまして、中ほどにございます、関係省庁、地方公共団体、スポーツ界等の連携が必ずしも十分とはいえないのではないかと。スポーツ人材を養成する必要、こういったものが指摘をされているということに記載をしております。

②の「課題」としまして、アスリートの育成、それから、人材育成システム、これらの検討をする必要があるであろうということでございます。

「(5) 国内外のスポーツ大会の開催等の推進」ということで、①の「現状」としまして、国際大会の開催ということについては、経済的な効果を生み出す、こういったものが可能性があるということで、現状として、ワールドマスターズゲームズ、オリンピック、ラグビーワールドカップ、こういったものが開かれるということで、関西を活性化させる絶好の機会であるという現状を踏まえまして、6ページをご覧いただきまして、それに対する「②課題」としまして、それらの大きな大会の成功、それから、オリンピック、パラリンピック等の事前合宿の招致、こういったものを実現をして、関西全体で取り組む体制を検討する必要があるであろうという指摘をしてございます。

7ページでございますが、「関西が目指す将来像」ということで、これも骨子のほうに記載をしてございました。まず一つ目としまして、「生涯スポーツの拠点『生涯スポーツ先進地域関西』」ということで、生涯スポーツの機運の高まりを持続的なものにする取組を推進しまして、日本の生涯スポーツの拠点となる「生涯スポーツ先進地域関西」を目指していこうというものが第一番目でございます。

二つ目に、「競技スポーツ大会の拠点『スポーツの聖地関西』」ということで、聖地と称される競技場、例えば、甲子園球場であるとか、花園ラグビー場、そういった聖地と称される競技場や発祥の地というものが数多くある関西の強みを生かしていこうということで、おめくりいただきまして8ページでございますが、日本の競技スポーツ大会の拠点として「スポーツの聖地関西」を目指していこうという目標でございます。

三つ目としまして、「スポーツツーリズムの拠点『スポーツツーリズム先進地域関西』」でございます。大きな国際大会が相次いで開催されるという中で、各府県市の広域的な連携のもと、関西における多種多様な地域資源、観光地、文化、そういったものを結びつけまして、インバウンドの拡大を図っていこうということで「スポーツツーリズム先進地域関西」を目指す。この大きな三つの将来像、これを目指して取り組んでいこうという目標を掲げてございます。

それに対して、どういった取組をしていくのかということで、9ページから「広域課題に対する戦略」というものを記載してございます。

まず、「戦略Ⅰ『生涯スポーツ先進地域関西』の実現に向けた戦略」としまして、「①子供や子育て層のスポーツ参加機会の拡充」でございます。前回の委員会の中で、まず、中沢委員から、総合型地域スポーツクラブ等の支援ということを記載してございましたが、「広域連合や府県、具体的にどのようにかかわっていくのかが見えないのではないか」というご意見をいただきました。また、元木委員からは、「プロスポーツとの連携の取組、こういったものも記載してはどうか」というご意見をいただいております。その中で、①の中、「このため、」の段落でございますが、その四番目のところに具体的に、詳細にご意見を踏まえて記載をさせていただいております。例えば、過疎地域等、地理的条件により人材不足のため活動が停滞している団体、こういったものに対して同様の課題を持つ近隣県同士で県境を越えた交流会の実施、または、指導者、選手の相互派遣、あるいは、地方の団体に対するプロスポーツ観戦機会の提供、プロ選手による指導の機会、こういったものを設ける、これの支援を通じてスポーツの習慣化を促進していこうという戦略として

記載をさせていただいています。

それから、興治委員からは、「子供たちのスポーツ障害の予防、治療についても検討してはどうか」というご意見をいただいております。この中で、治療について、医療の分野にどれだけ踏み込めるかということを検討しておるんですけど、そこはまだちょっと検討課題があるのかなということで、スポーツ予防という観点から発育段階にある子供たちのスポーツ障害の予防の重要性、これを周知する事業を検討していくということで反映をさせていただいております。

それから、八尾委員からは、「スポーツ以外の分野にスポーツをリンクさせたイベント、これの具体的なことがよくわからない」というご意見をいただいておりますので、「さらに、子どもの参加を」という段落で、例えば、災害時に家族を守りながら、安全に避難する知識や体力を身につけるため、避難所を確認しながらウォーキングするような機会づくりや乳幼児を抱える母親を対象にしたスポーツ・レクリエーションを生活や子育てにうまく取り入れる講座、こういったイベントを開催するということを検討しようということでご意見を踏まえて記載をさせていただいております。

続きまして、②は「中・高年のスポーツの振興」ということで、生涯スポーツを振興するための施策、こういった絶好の機会であるということで、10ページでございますが、対策としまして、関西マスターズスポーツフェスティバル及びワールドマスターズゲームズのプレ大会の開催支援、こういったことで中高年の参加機会の拡充を図っていこうということを掲げてございます。

③の「障害者スポーツの振興」でございますが、この対応としまして、関西ワールドマスターズゲームズの障害者スポーツ参加機会、これを拡充していくということと、体育施設及び交通アクセスも含めた周辺地域全体のバリアフリー化の推進、それから、最終にあります、障害者スポーツの機運醸成、理解の促進、こういったことを図っていこうという目標を掲げております。

それから、「④地域のスポーツ振興に向けた広域的連携による支援」でございます。こういった中身としまして、下線の部分ですけれども、スポーツに関する意識、余暇、行動、こういったものを今、各府県でそれぞれ独自に調査、分析をしてございますが、それを関西全体で統一的な実施をしまして、関西全体としての統一的なデータ集積、そういったものを検討してはどうかということでございます。11ページのほうへ入ってございますが、続きまして、関西マスターズスポーツフェスティバルの毎年度の開催でありますとか、スポーツ大会の招致に当たりまして、新しい参加形態の創出ですね、家族単位であるとか、親族、職域、同窓会、そういった様々なグループを組んで取り組むことによって、スポーツになじんでいきやすい環境づくり、それから、最終の行にありますスポーツボランティアに参加できる環境の整備、これらに取り組んでいこうということでございます。

戦略Ⅱの「『スポーツの聖地関西』の実現に向けた戦略」でございます。

「⑤国際競技大会・全国大会の招致・支援」ということで、ここにつきましては、藤田委員から、「大きな大会についてそれぞれが誘致合戦に終始するということではなくて、施設の共同利用や地域振興につながるような新たな競技大会の検討も必要ではないか」というご意見をいただいております。そのご意見を踏まえまして、毎年度の開催、いろいろ検討する中で、最終行でございますが、各地に整備されている大規模競技施設利用の連携

をしたシステム、こういったものを検討して、全体として取り組んでいこうというような方向を位置づけをさせていただいております。

「⑥スポーツ人材の育成」でございます。スポーツ人材でいきますと、これもそれぞれの各府県市で取り組んでおるわけですが、それぞれの取り組みを連携したアスリートの育成であるとか、スポーツ指導者、審判であるとか、それをバックで支える役員等々のスポーツ人材、そういったものの育成の講習会、こういったものを共同開催をしたり、国際競技大会や開催時にスムーズに確保できるような、そういった相互派遣できるようなシステムを検討してはどうかというような記載でございます。

12ページのほうをお願いいたします。

⑦の「国際競技大会等のレガシーの創出に向けた検討」でございます。この部分につきまして、中沢委員から、「レガシーというものはわざわざ残すものではなくて自然にできるものである」、「これを一部の地域に固定化しないようなそういった取組をお願いをしたい」というご意見をいただいております。そのご意見を踏まえまして、最終の塊、「このため、」の段落でございますが、今後、大会の開催、事前合宿等の実施によります有形、無形の波及効果、これレガシーでございますが、これを最大化する取組を進める体制、これを構築しながら、関西ワールドマスターズゲームズ2021の成果を一過性のものに終わらせることなく、次世代に引き継ぐレガシーを創出することを目指した方策、これを検討していこうということで、全体としてこれを残す方向で取り組んでいこうということを示させていただいております。

戦略Ⅲの「『スポーツツーリズム先進地域関西』の実現に向けた戦略」でございます。

⑧としまして、「広域観光・文化振興との連携」ということで、二つ目の段落、インバウンド対策の強化でありますとか、関西に集積している観光資源、文化資源、これらを融合させて関西ブランドを理解・体験できるプログラムの創出、それと、関西の強みである、先ほど申し上げました聖地と称される競技場、こういったものを結びつけた広域的なスポーツツーリズムのプログラムの創出、これを研究、検討していこうということでございます。

⑨の「スポーツの関連組織とのネットワーク形成」、一行目から記載しておりますけれども、関西には、世界的にいろんな製造業、こういったものをスポーツに関する製造業が集積をしている、こんな状況、それからまた、関西はということで、先ほど来言っておりますが、発祥の地ということでいろんな位置づけがされている。こういったこととスポーツの伝統と観光をはじめまして、食、アミューズメントとか、ファッション、健康、医療こういった関連した産業、こういったものを結びつけられないかということでございまして、13ページのほうに今後、スポーツと連動することによって、発展が見込めるスポーツ関連産業の現状の把握、どのような状況にあるのかということ把握をしていくとともに、これらの産業分野と融合したスポーツの振興方策、これを研究していこうというふうな目標を定めてございます。

それから、14ページをお願いいたします。

最後、ビジョンの実現に向けてどう取り組んでいくかということでございますが、この部分につきまして、全体のビジョンについて前回、大橋委員、中川委員のほうから、「全体が総花的で、広域連合として取り組むべきもの、それから、府県市で取り組むべき

もの、これがはっきりしていないのではないか」というご指摘をいただいております。前回は確かにそういった区分を明確にしてございましたので、二つ目の段落から、関西広域連合とそれぞれの構成府県市がそれぞれどのような取組をしていくのか、役割分担をしていくのかということに記載をさせていただきました。

主な取組の具体例としまして、関西広域連合は、国際競技大会、全国大会、それぞれの開催の支援ということと、②にありますスポーツに関する意識、余暇、こういったものの実態調査の実施でありますとか、指導者情報の共有化、審判、そういったスポーツ人材というものの共同の開催、いろんなところでやるものを連携、共同、そういったことが必要ではないか、そういった取組をしようということで、実際のイベントにしましても、例えば、各府県市が実施している地域の特性を生かしているようなスポーツイベントをされている。例えば、琵琶湖一周のサイクリング、淡路島一周のサイクリングであるとか、そういったいろんな取組をされているものを融合的に広域的でリンクされた取組、そういったことを新たな発展したものととして広域連合として取り組めるのではないかと位置づけでございます。

それに対しまして、構成府県市としましては、それぞれ今現在やっておる取組ということもございしますが、総合型地域スポーツクラブ等の活動支援でありますとか、新しく提案をさせていただいたようなイベント、こういったものはそれぞれの府県市で独自にやっていたり、そういった全体の取りまとめを広域連合としてやっていきたいというふうを考えてございます。

15ページ以降につきましては、参考資料としまして、現状と課題で挙げているようなところのこれまでのアンケートであるとか、調査、文科省の調査、そういったものをグラフ等でお示しをさせていただいております。

私の説明は以上でございます。どうかよろしく願いいたします。

○委員長（家森茂樹） それでは、質疑に移ります。ご発言のある方は挙手を願います。井坂委員。

○委員（井坂博文） 京都の井坂ですけど、今、説明いただきました4ページと11ページに二カ所出てくるんですが、各自治体にある大規模施設などの連携利用ですよね、この連携利用に当たって、例えば、これから施設を整備しようとする問題についても、広域連合として連携を促進していくのかということと、それと、施設の運営や人材派遣の連携と同時に、財政的な連携とかというのは大会に限らず日常的に検討されるものなのか、それについて連合としての見解をお聞かせいただけますか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご意見ありがとうございます。

連携ということで、委員ご指摘のとおり、これから新しくつくるものについてそういった思想を持ってできるというのが一番望ましいとは考えますし、財政的にもそういった支援ができれば我々として望ましいと考えてございますが、当面、そういった施設整備に当たって、恐らく個々の自治体のほうで施設整備の必要性であるとか、財源措置はされると思いますし、恐らく、例えば、国庫の取得であるとかということも、個々の団体でされると思いますので、なかなか財政的なものを連合として支援をしていく、踏み込んでいくとい

うのは当面難しいと考えてございます。ですから、まず今ある既存の施設で何かスポーツイベントをやろうというときに、例えば、日程の調整でうまく各施設が使えないかということでもありますとか、ある大会を招致するときに、一つの施設だけでは日程的にカバーできない、じゃあ、お隣の県のこの施設を使えば、広域的に日程もうまくはまりますよねというような情報を共有しながら、まず既存の施設からできればというふうに考えてございます。

○委員長（家森茂樹） 井坂委員。

○委員（井坂博文） 今、お答えいただいたんですけど、既存の施設から始めるというふうにいった場合に、例えば、いろんな大会のときに、都道府県をまたがってメイン会場、サブ会場みたいにやる場合がありますよね。そういうのを念頭に置かれているのかということと、先ほど財政的な連携、支援といったのは、そういうことを念頭に置いて、イベントのときの財政連携だけではなくて、日常的なところにおいても財政的な連携というのを都道府県単位、あるいは、自治体単位でやっていくのかということの趣旨なんですけれども、その点についてはいかがでしょうか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 今、私どもとして考えてございますのが、財政的なところに踏み込んで、日常的な大会でということになりますと、それぞれの大会の分析であるとか、いつどういった形で招致するのかというところを踏み込む必要がありますので、今すぐにそこをやろうというのは難しいかもわかりませんが、将来的にはそういったことができるようなことを目指したいと考えてございます。

それから、既存の施設ということでございますが、今、委員がおっしゃいましたように、一つの大会でメイン会場、サブ会場という位置づけもあろうかと思えますし、並列で、なかなか並列には難しいかもわかりませんが、どこかが中心となってA市さんが招致するときにB市の会場を使うということであればメインとサブというような形、それから、サブが複数あるということも考えられますし、そういった連携を今、想定をしているところでございます。

○委員長（家森茂樹） よろしいですか。

○委員（井坂博文） はい。

○委員長（家森茂樹） ほかにございますか。

中沢委員。

○委員（中沢啓子） いろいろと反映していただいてありがとうございます。一つちょっと前回聞いておくべきことやったのかもしれない、ちょっと教えていただきたいんですが、10ページの上のほうなんですけれども、「関西マスターズスポーツフェスティバル及びワールドマスターズゲームズのプレ大会等の開催を支援し」という言葉を概要版の中でも書いてあったということでご紹介いただいたんですが、具体的にどういうものをしようとされているのかというのをちょっと教えていただいでよろしいでしょうか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 関西マスターズスポーツフェスティバル、いろんな大会で各地域でやられるところに冠をつけまして、マスターズの大会の位置づけの中でやっていこうということで、実際もう既にされているんですけ

れども、このことにつきましては、メインはワールドマスターズゲームズの組織委員会のほうで考えられて、対応されていくということなんですけれども、例えば、そのPRであったり、もともと関西広域連合でそういった事務をやっておったのが独立されたということですので、我々としてもそういったPRであるとか、大会に当たっての支援とありますので、何らかそういったものを我々としてもバックアップするような体制で対応できないかというようなことで記載をさせていただきます。ですから、メインは別の組織委員会のほうでやられるという前提でございます。

○委員長（家森茂樹） 中沢委員。

○委員（中沢啓子） そうなんです、ちょっとわかりにくいのは、ワールドマスターズゲームズは、今、組織委員会があつて、奈良県さんは今回入られたばかりなので、今後どうされるかということもあるんでしょうけど、どこで開催するかということも含めて、入られていない自治体があつて、それが関西広域連合との少し差があるので、それに対してこういうふうな形でプレというのでもどのような形でやっていかれるときにどうなのかなというのとはちょっと気になる場所だったんですが、また、そのあたりは十分検討いただいて、ぜひ全体で欠けることなくできるような形になるといいなと思いますので、また、そういうような願いを持ってよろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご指摘ありがとうございます。ワールドマスターズゲームズのほうも今、いろいろ大会の開催地であるとか、いろいろな動きをされていますので、そういった状況を把握しまして、齟齬のないように整理をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） ほかにどうでしょうか。

川田委員。

○委員（川田 裕） 初めての参加の奈良県の川田でございます。よろしくお願ひします。

ちょっと素朴な疑問といいますか、初めてで今後また学習をしていかなければいけないんですけれども、まず、この今ビジョンを示された中で、全体的に今後こういうふうに進んでいこうという計画であるということですね。今、国のほうでも総合戦略の創生プランというのが今、全国各都道府県でつくってます。あれは、特別公共団体も可能であるということになってるんですけど、そのうちの一つの事業として、今後、これをそれに出されていくと、あれも交付金措置等々ありますから、そういったものに申請をされていくというような計画は考えていらっしゃるんですか、今後検討事項かどうか、ちょっとそれを教えていただけますか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご指摘ありがとうございます。

今のところ、各府県がやっていくところの支援をしていこうという段階で、関西広域連合独自として計画なり、国のほうに登録して位置づけしていく、まだそこまでは今のところは考えてございません。まだまだ初期の段階でございますので、今後、そういったこの計画がローリングされたり、取組が進んでいく中でそういった議論も出てくるのかなと思

っておりますけれども、今のところはまだ想定ができていないというところでございます。

○委員長（家森茂樹） 川田委員。

○委員（川田 裕） 内容を見ていましたら、スポーツ、非常に素晴らしいことでありまして、また、高齢者とか、今、健康寿命とかも伸ばすとか、ほとんどああいった要素が大きく詰まっているものだと思いますので、今後またぜひともご検討いただきたいようお願い申し上げます。

以上です。

○委員長（家森茂樹） 阪口委員。

○委員（阪口 保） 奈良県から来まして、阪口と申します。初めてなので、ちょっとわかりにくい部分もあると思いますので、質問いたします。

私自身、スポーツ振興ビジョン、そのものについては非常に賛成でございます。最後のほうでビジョンの実現に向けての主な取組の具体例として、関西広域連合として、国際競技大会を招致していくと。具体的には、いろんなスポーツがありますね。多様なスポーツがあるので、陸上であれば公認競技場は限られているとか、ラグビーであっても競技場がある程度限定されてくるところもあると思いますので、関西広域連合として具体的にどういうふうな国際競技大会を念頭に置いて書かれているのかということについて質問いたします。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 具体的にこの大会がということは今後、どの大会がいつ行われて、国際大会になりますと、今後の日程とか、ある程度決まっていく中で手を挙げていくということになるかと思うんですけれども、広域連合として手を挙げている、今、関西ワールドマスターズについては、関西としてやろうということで招致をしているわけなんですけれども、具体的に今、各府県なり、市独自でいろんな取組がなされておると思いますので、そういったものの支援をしていこうというのが主な広域連合としての支援でございますので、今後、こういったビジョンを掲げる中で、独自にどんな動きをされているか、そういったものを把握した上で連合として支援をしていく、そういったことを今、考えておることとさせていただきます。

○委員（阪口 保） どうもありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） ほかにございますか。

興治委員。

○委員（興治英夫） スポーツツーリズム、12ページのところに書いてあるんですけど、どのようにイメージを持っていらっしゃるのかということについてお伺いをしたいと思います。ここの⑧のところの一番最後のほうに、「関西各地に多数ある聖地と称される各競技場を活用した広域的なスポーツツーリズムのプログラム創出を研究」というふうになっておりまして、私、鳥取県なんですけど、鳥取県でスポーツツーリズムといった場合、例えば、大山があつて、韓国からお客さんが来られて大山の山登りをしたりとか、あるいは、サイクリングをしたりとか、それで、冬はスキーで、それから、夏は海水浴とか、そのような自然の中でスポーツを楽しむというようなイメージなんですけれども、各競技場を活用した、いわゆる聖地と称される競技場を活用したということになると、大きな競技大会に参加をするのか、あるいは、観光としてお客さん、スポーツ観戦で来られる、そういう

ものをイメージされているのか、ちょっとどういうものをイメージされているのかということをお知らせしていただきたいと思います。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 今、現在、考えておりますのは、聖地と呼ばれるような、先ほど言いました甲子園球場でありますとか、ラグビーでありますとか、そういったプロスポーツが中心になるかもわかりません。そういったプロスポーツが関西の中で各地で開催をされておりますが、今、それぞれいろんなプログラムを見ていますと、観戦というのが中心になるんですけども、そのスポーツを観戦するだけで帰られる、それがなかなか、例えばインバウンドであったり、国内のお客さんであったり、そこはもったいないなということで、観光の担当とも考えておるんですけども、そういったスポーツ観戦を核にして、次の日は、例えば、文化的なものの観光であったり、今、委員がおっしゃったような参加型のスポーツを組み合わせたり、そういったスポーツと観光がセットになったようなそういったツアーではないですけども、そういったものが創出できれば長期間滞在をし、楽しんでいただける、そういったことの中にスポーツを組み込めないかということで、どちらかというスポーツ観戦のほうを中心とした観光というものをイメージしてございます。

○委員長（家森茂樹） 興治委員。

○委員（興治英夫） わかりました。ただ今、私が申し上げたように、それ以外にでも、例えば、ウオーキングの大会でありますとか、それから、何か幾つかあると思うんですね。自らが体を動かしてそこでスポーツ体験をして、かつ自然も満喫をして、温泉につかったり、食を楽しんだりして帰っていただくというような、そういうスポーツツーリズムなどについてもぜひ研究、検討いただくようお願いをしたいと思います。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご指摘ありがとうございます。そういった今、イメージとしましては観戦ということでございますが、先ほど委員ご指摘のように参加型というのも当然参加をされるということで、前のほうに子供や子育てとか、生涯スポーツ、こちらのほうにもつながってこようかと思っておりますので、ぜひ検討させていただきます。ありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） ほかにございますか。

諸岡委員。

○委員（諸岡美津） 印象で申し上げて申しわけないお話かも知れませんが、様々な戦略を書きいただいている中で、「検討する」という言葉が非常に多いなという実感があるんです。例えば、戦略Ⅱの「国際競技大会・全国大会の招致」であるとかは、「各地に整備されている大規模競技施設利用の連携システムを検討する」、検討された結果、どうなるのかということが何かすごく不明確な実感がありますので、例えば、「連携システムを構築する」とかいう形でぜひ書いていただきたいなというふうに思うんです。そのほかのところでも次の12ページのレガシーも「検討する」とかいう形で書かれていますので、検討された結果、どうなるのかということではなくて、やはり戦略なので「構築を図る」とか、そういった言葉で書いていただいたほうが戦略という実感があるかなというふうな印象がありましたので指摘をさせていただいたところであります。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご指摘ありがとうございます。我々いろいろ整理をする中で、ここまで踏み込めるのかなという若干ちょっと引けてるところがあるのかもわかりません。ぜひご意見、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） 諸岡委員。

○委員（諸岡美津） 確かに立ち位置もございますので、非常に検討して、どうしていただくのかということで書きづらいということはすごくよくわかるんですけども、やはり戦略というふうに書いていただく以上は、実現に向けて取り組むとかいう積極的なそういった心構えみたいなものが感じられるような戦略にぜひしていただきたいと思いますので、この言葉でも構いませんけれども、そういった背景もぜひお考えいただきたいなと思います。よろしくお願いします。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） ほかにございますか。

川田委員。

○委員（川田 裕） 先ほど聞けばよかったんですけども、奈良県の川田です。よろしくお願いします。

これは、一応計画として、ビジョンとしてやっていかれるわけですけども、これに対する評価制度と、それと、P D C Aサイクルの確認方法、これはどのようにお考えになっておられるのでしょうか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 当然、各計画、関西広域連合それぞれ計画をつくって、その検証、実証をやっております。今、このビジョンについてのご審議をいただいておりますので、それを踏まえて来年度の具体的な取組をどうしていくのかという中で、その成果をどう評価していくかもあわせて検討したいと考えてございます。

○委員長（家森茂樹） 川田委員。

○委員（川田 裕） それはK P Iとかそういったものを入れられていくという、そういう考え方でよろしいんですか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 関西広域連合、様々な計画の中で横並びでいろいろ指標をつくってございますので、全体に齟齬がないような形でそういったK P Iを導入するのかということについては全体を見据えて設置をしたいなと思います。

○委員長（家森茂樹） ほかに、吉川委員。

○委員（吉川敏文） 一点だけすみません、それぞれの府縣市でできることと、関西広域連合でできること、今後立て分けてお考えいただかないといけないんですが、明年度、具体的に何をやっていくのかに向けて一点だけ、これは要望にしたいと思っているんですけども、スポーツ人材の育成、特に、アスリートの育成というのは大変お金がかかると思うんです。ただこれは圏域を越えての育成システムが必要だと、本当は国がもっとやる

べきだとは思いますが、関西広域連合として取り組める一つの 카테고리ではないかなというふうに考えるんです。その上では、資金をどうしていくのかという仕組みがないと、なかなかそれは実現できないと思うんですけれども、そのあたりのお考えは今、何かお持ちでしょうか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご指摘ありがとうございます。確かにアスリートの育成については、お金がかかりますし、これについては各府県市で今、取組をされているということの中に、例えば、それぞれの取組ですから、競争性があって、なかなか情報が表に出ないということでもありますとか、取組としては、例えば、ブロックでいいますと、近畿ブロックというような取組の中で、関西広域連合とはマッチしていない、鳥取県さんであるとか、徳島県さんの部分をどうするんだということがありますので、今後、そういった府県市だけではなくて、競技団体であるとか、体育協会、そういったところへの働きかけによって広域的に何ができるのかということ、これも検討ということで恐縮なんでしょうが、そういったところに踏み込んでいく、じゃあ、財政的なところが広域連合としてどういったことができるのか、具体性については今後考えていきたいと思うんですけれども、なかなかアスリートのところを踏み込まないと全体としてのスポーツ振興、底上げができませんので、目標として掲げて、具体的などころについてはご指摘どおり、今後、きちんと対応ができるような形を検討したいなというふうに考えてございます。

○委員長（家森茂樹） 吉川委員。

○委員（吉川敏文） 過去に、例えば、アイススケートリンクをどうするかどうかという議論が大阪であったかと思うんですけれども、やはり府県市に住まわれているとか、そこで活動されているというのは確かにそうなのかもしれませんが、やはりより広域で、例えば、基金なんかをつくっていただいて、アスリートの方が使えるような仕組みをつくっていただくとか、府県市と同じことをやる必要は当然ないと思うんです。広域連合ならではのそういう資金面での援助ができるような仕組み、ちょっと知恵を絞っていただきたいということを要望しておきます。ありがとうございました。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ありがとうございます。

○委員長（家森茂樹） ほかにございますか。

藤原副委員長。

○副委員長（藤原武光） 時間がきたら終わろうと思っていたんですけど、何かあるようで。先ほどから議論になっていることも含めてですけども、今回、振興ビジョンをつくられる、これはワールドマスターズゲームズ2021、これ招致ができたということが一つのきっかけだと思うんです。それに基づいてさらに関西広域連合としてのスポーツという聖地をつくらうと、こういうふうにお考えになったということだと思うんですが、そういたしますと、2020年のオリンピック・パラリンピックももちろん一つのことになるんですが、実は、このビジョンをつくるということは、じゃあ、ワールドマスターズの次ですね、ポストですね。これをどう考えるかというのは非常に大事に、例えば来年度の方針を書くに当たっても、必ずしもこれは明確には書けないと思うんですね、決まってもないわけですから。少し調べてみましたら、スペシャルオリンピック、この開催が実は夏季と冬季があ

るようですが、1968年から始まった夏季大会では日本の開催がゼロ、ということになっています。冬季は1977年から開催されて長野で2005年に開かれた。このスペシャルオリンピックはかなり参加人数も多いと聞きますし、あるいは、それを支援するメンバーもたくさんいらっしゃるということと、この旗を振っているのも日本の方と、こういうふうにお聞きをしておりますして、そういう意味では、国際競技大会を目指すとすれば幾つか課題があると思うんですけど、スペシャルオリンピックというのはかなり有効に関西で開いていただけるということではないかなというふうに思います。

アジア競技大会も見れば、1994年の広島、1958年の東京、それ以降、開催が日本ではなくて、あとは韓国であったり、中国であったりという開催地が多いわけですけど、チャレンジするとすればここも一つの狙い目の大会かなというふうに思ったりするんです。ユニバーシアードの大会も関西でいうと1985年の神戸、これは夏季大会ですけども、冬季では札幌もやっているんですけども、幾つかそういうことがあるので、関西として国際競技大会が開かれることで小さいお子さんも高齢者の方も含めて沸いてくると。こういう関係になると思うので、その辺のストーリー、どう書いていくかというあたり非常に大事だと思うので、その辺も含めて来年度、このビジョンをつくるということはそれをやっていくということがない限りビジョンをつくった理念型で終わってしまうというような心配もあります。その辺はどんなふうに今、考えていらっしゃるかとすると検討となるんだと思うんですが、胸の内、どのような状況になっておられるのかお聞きしたいと思います。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 本来、我々がご提示をしなければいけない情報を提供いただきましてありがとうございます。

国際大会を招致と考えた場合に、やはりご指摘のいろんな各種大会、障害者スポーツも含めて各種大会ございますので、それに向けていろんな地域が手を挙げようとしているとか、準備をしているというのがございます。ですから、我々としてどういった規模の大会で、いつの段階でどうしていけるのかということをしちんと情報をつかんだ上で、実現可能性のあるところについて絞り込んでいく、そういったことも必要だと思っておりますので、まず、ご提示いただいたような大会、その他、大きな大会がございまして、その中で我々としての取捨選択とそれに向けての計画というものをしっかりと持てるような形で検討したい、検討で申しわけありませんが、考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

○副委員長（藤原武光） それはそういうことでしっかりとプランの中に検討を入れていただきたいと思います。

もう一つは、人材育成の話があったんですが、もう一つ高齢社会を迎える中でのスポーツと健康増進ということセットでお考えをしていこうと、こういうふうに言っているんですけども、これもなかなか関西でじゃあ具体的に何をやるかというのは非常に難しいと思うんです。構成団体の府県市が具体的な実践と、こうなるんだと思うんですけども、そうすると、関西広域連合とすれば、例えば、これは経済と産業というふうに捉えるのかどうか、ここは非常に大事なポイントになってくると。これはそういう意味では産業という位置づけでもってさらに健康増進を図っていく、そのサポートが関西の中でちゃんと提供できるものがありますよというふうなことがプログラムされるほうがより実践的ではない

かと思うんですが、その辺はどうでしょうか。

○委員長（家森茂樹） 小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） ご指摘ありがとうございます。そのあたりにつきまして、戦略Ⅲの最後のところにも一つそういった健康とか、医療とか、そういった産業とスポーツを結びつけるような、産業としての位置づけというものが考えられようかと思っておりますので、関西の中でこういった集積があるのか、そういったところを分析した上で今後の発展をさせるための施策、手法、そういったものをここでは研究と書いてございますが、実際に前向きな取組としてやっていきたいというふうに考えてございます。

○副委員長（藤原武光） よろしく申し上げます。

終わります。

○委員長（家森茂樹） もう30秒だけありますので、先ほど中沢委員からは非常に優しい言い方でおっしゃっておられたんですけども、この計画のもとになった関西ワールドマスターズ、今回、奈良県がご加入いただいたということで、奈良県さんも含めてこれからの開催都市の選定に当たってのルールというのをもう一度はつきりしておいていただくように、質問にはいたしませんので、一つ次回にはぜひお願いをしたいと思います。

小橋スポーツ部長。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長（小橋浩一） 先ほども申し上げましたが、組織委員会、別団体でそれはやってございまして、我々も当然、そこは注視しておりますし、そういった動き、動向をはつきりと把握しておくというのは我々の努めでございますが、あくまでも別団体でやっておりますので、申し伝えておきますのでよろしく申し上げます。

○委員長（家森茂樹） それでは、ご発言も尽きたようでありますので、本件についてはこれで終わります。

以上で、産業環境常任委員会を閉会いたします。ご苦労さまでございました。

午後1時50分閉会

関西広域連合議会委員会条例（平成23年関西広
域連合条例第14号）第28条第1項の規定により、
ここに署名する。

平成28年3月

産業環境常任委員会委員長 家 森 茂 樹